

新潟日報

2014年(平成26年)

8月15日
金曜日



手作りのカウンターに酒を並べ、出来栄を確認する芝浦工大の学生＝13日、佐渡市西三川

試飲室おしやれに

旧西三川小の「学校蔵」

大学生がカウンター作る

閉校した佐渡市の旧西三川小学校を日本酒の酒蔵として再利用した「学校蔵」で13日、芝浦工業大(東京)の学生たちが手作りのカウンターとテーブルを試飲室

「学校蔵は、尾畑酒造(真野新町)が校舎を借り受けて改築し、今春オープンした。芝浦工科大学部建築工学科の学生が改築の段階から携わり、今までに玄関口や休憩室を整備した。今夏は2年生から院生までの約20人が、酒を置くカウンター1台とテーブル2台、外窓の格子を作った。材料の発注と設計もこなし、電動工具やノミを使い施工した。

長さ1・8坪のカウンターの台板には、佐渡産のアテビ(ヒノキアスナロ)を使い、アテビの自然な曲線をデザインに生かした。設計を担当した4年生赤堀智香さん(22)は「教卓や理科室の実験台をイメージした」と話す。リーダーの4年生山田恭祐さん(21)は「大学の講義とは違う。手でものを作る大変さと楽しさを実感できた」と振り返った。

設置作業を見守った尾畑酒造の平島健社長は「若い人が、日本酒とものづくりという伝統文化に触れる良い機会になればうれしい」と話していた。